ひたち管

日立勤労者音楽協議会機関誌



今月の例会外事業（梨狩り）

今月の例会　東京労音新交響楽団演奏会

9 月号

1965 (September) No. 47

＜潮流＞

成功を約束される未来

――ブロック活動の現状――

機関誌や代表者宛のニュース等で〝ブロック〟という言葉が出始めてからもう四カ月ぐらいたちますが、最近やっと多くのブロックが動き始めてきたので、各ブロックの現在の様子をお知らせしましょう。

◦高萩ブロック

高萩地区のサークルの集まりで高萩事務所を中心にすでに約三年前から活動を続け、日立労音ではもっとも歴史の古いブロックです。現在地域委員が中心になり、高萩地区のサークル代表者会議を随時開いたり、月に一回喫茶店でレコードコンサートを自主的に開いています。

◦多賀（ABC）ブロック

多賀地区のサークルの集りで、会員は日製の工場の人から商店につとめている人まで多種多様です。七月四日に土岳にハイキング、九月十二日には小貝浜ではんごうすいさんを行ないました。七月から多賀事務所を開設しましたが、その受付事務を多賀ブロックの会員が交代で手伝っています。

◦Dブロック

このブロックは委員や活動家をもっとも多く送り出している所で、いわば日立労音の中核をなしています。色々な例会外事業への参加率等も高く、ブロック別のスポーツ大会をやればDブロックの優賞まちがいなしと豪言するDブロックの会員もいるとか。八月二十九日村松海岸へハイキングに行き、フォークダンスを楽しみました。

◦旧市内（J）ブロック

このブロックには日製関係の人、銀行金融関係の人、医者、自分で商売をやっている人、学生等あらゆる種類の職業、年代の人々がいます。ブロックの担当者がきまり、ハイキング等の事業を専門にやる人、ブロックのニュースを出す人、レコードコンサートをやる人と三組に分かれて活動が始まっています。

◦GHIブロック

G、電線工場、H、日鉱、I、学校、市役所の三つは、それぞれ一つだけでは会員数も少なくブロックの活動がやりにくいので、この三つが一緒になって一つのブロックとして活動を推めることにしました。九月七日第一回の集りがもたれ、GHIからそれぞれ一名づつの担当者を選び、これから活動が始まるところです。

◦Eブロック

このブロックも委員や活動が多く、特にフォークダンスやソシアルダンス等の指導者が多いので、ブロック活動が始まれば、特徴ある例会外事業がやれるでしょう。九月十五日に第一回の集りがもたれました。

以上が現在の各ブロックの動きであり、全般的に先ずブロックとして取り上げている所が多いようですが、これからは必らずしもハイキングばかりではなく、もっと機知に富んだ色々な事業を取り上げて行くことが望ましいでしょう。また、将来は例会外事業だけでなく、例会企画の検討や日立労音の運動方針についての検討を行ない、労音をもっと会員自らのものにして行きたいものです。

名曲　珈琲



毎週火・金曜日　PM. 7.00—8.00
白十字コンサートを開いております

白十字

TEL. 2—2789



今月の例会

東京労音

新交響楽団 演奏会

指揮　芥川也寸志

——プログラム——

歌劇〝魔弾の射手〟序曲……ウェーバー

交響曲第8番〝未完成〟……シューベルト

交響曲第5番〝運　命〟……ベートーベン

芥川也寸志さんのこと

大正十四年、文豪芥川竜之介の三男として東京に生まれました。東京音楽学校（現芸大）作曲部を卒業。ピアノを井口基成に、指揮を金子登に、作曲を伊福部昭にそれぞれ師事しました。

作品には、ピアノ組曲「踊り」歌曲集「車鹿車」「交響管弦楽のための音楽」「管弦楽のための三章」バレエ音楽「失楽園」オペラ「暗い鏡」「河童」映画音楽「煙突の見える場所」ほか多数あります。

指揮者としては、東京労音創立二周年記念例会「森の歌」六三年八月東京労音例会「東フィル演奏会」ほかに活躍されましたが、やはり創立当初から指揮して今日の新響を作り上げたことが、最大の功績ではないでしょうか。

著書には「音楽談義」等があります。最近では音楽以外の分野でも幅広く活躍されているようです。



きょくもくかいせつ

歌劇「魔弾の射手」序曲　ウエーバー

ウエーバー（一七八六～一八二六）は、ドイツ国民歌劇の創始者で、モーツアルトの「魔笛」やベートーベンの「フィデリオ」を継いだ「魔弾の射手」によりはじめて、ドイツの風俗習慣をとり入れたドイツ語のオペラを生み出し、やがてロマン派歌劇の口火を切った人です。

歌劇「魔弾の射手」は、ウエーバーの代表作であると同時に最初のドイツ国民歌劇として歴史的にも重視されているもので、十七世紀後半のボヘミア森林地帯を舞台にくりひろげられる猟師のロマンスの物語です。魔弾にまつわる怪奇幻想的な気分を盛り込み、ロマン的な情緒を、ドイツ農民の素朴な生活とを巧みにおりまぜ、豊かに郷土色を描き出しています。

「序曲」は劇中からとられた旋律を中心に、ドイツの地方色を表わすと同時に歌劇の内容をも示しております。

曲は、アダージョの壮厳な序奏にはじまり、やがてホルンの四重奏が民譜風の旋律を奏で、ボヘミアの森林地帯のうっそうたる状態を暗示します。更に「狼谷の場面」の不気味な音楽が弦のトレモロを中心として現われ、続いてハ短調の主部に入ります。そして最後を劇の大詰の愛の勝利を讃える大合唱で高らかに結んでおります。

交響曲第八番「未完成」　シューベルト

ロマン派音楽の開拓者であり、特に歌曲作曲者として知られるシューベルト（一七九七～一八二八）は、たった三十年の薄倖な生涯でしたが、じつに六百五十曲に上る歌曲を作り、また器楽の面でも数々の傑作を残しています。

交響曲第八番「未完成」は、シューベルトの最大傑作で、一八二二年の十月から書き始められ、第二楽章まで完成して、第三楽章は断片と原稿しかなく、第四楽章は全く書かれていないために、この名で呼ばれ親しまれています。

未完成ながらこの曲は、形式的な均整とロマンチックな美しさにあふれた作品ということができます。

第一楽章は「あたかも地下の世界から湧きあがるような」と形容される序の主題が、神秘的に、重厚に、低音楽器によって誘い出された後、第一主題が、哀愁を帯びた旋律で、ヴァイオリンの細かな十六分音符の上を木管楽器によって奏されます。第二主題は、チェロで出てからヴァイオリンに移され発展します。展開部は、力強く豪快に発展しますが、その底には常に暗澹たる気分が流れています。終結部は序の主題を回想的に用い、憧れに満ちた祈りのような感じです。

第二楽章は前楽章に比べ、おだやかでしっとりした楽章です。第一主題は、木管と弦楽器群との対話ですすめられ、その間をコントラバスのピチカートが溜息のようにぬっていきます。第二主題は、クラリネットからオーボエに受けつがれるもので、悲しみをじっとたえながら歓こびの到来を待つような、そんな感じのする優美な旋律です。

交響曲第五番「運命」　ベートーベン

ベートーベン（一七七〇～一八二七）は、古典主義からロマン主義への転換期に生まれ、その音楽的かけ橋を渡した功績は偉大なものです。

ベートーベンの作品は、全生涯を三つの時期に分けて考えられます。第一期は、三十二才までで、モーツアルトの影響を大きく受けて、古典的な型の曲をつくった時代、第二期は三十三才から四十五才までの間の壮年時代で、古典型を脱出して、ロマン的な作品を書き、第三期は交響曲第九番をはじめ、後期の大作・傑作の時代で、彼独自のものを完成しました。

「運命」は、第二期に当る三十七、八才の頃に完成した曲で、耳疾その他の肉体的疾患や失恋等により、人間的試練の最も甚しかった時期に作られた曲です。したがって、この曲の内容に、運命と斗い運命を克服した巨人の姿を認めるのは当然の事といえましょう。

第一楽章は、このようにして運命は扉をたたくとして、有名な第一主題で始まります。

この楽章は、全体にわたって憩いもなく、平和もなく、憤激と苦悩とに満たされた大きな深刻な詩を感じさせます。

第二楽章は、一種の変奏曲で、神秘的なうす暗い美をたたえた主旋律は不可思議な平和と慰めを感じさせてくれます。

第三楽章は、神秘的な魅力を持った主旋律が弱く低弦に現われ、それが消えるとホルンの奏する烈しい副次旋律が強い律動的伴奏に乗って進み、この二つは変転しながら発展します。無気味な緊張と興奮をかもし出す終結部が次第に熱して頂点に至る時、休むことなく曲は第四楽章に移ります。

第四楽章では、いままでたたえてきたよろこびが、あたかもせきを切ってあふれ出るように、明るく雄偉な第一主題が全合奏で現われ、力強く押し進んで、明るさに満ちあふれた弦の第二主題に入ります。

この終楽章は、苛酷な運命に打勝った後の大きなよろこびとでもいったような感じで終ります。



新響のこと



――芥川也寸志さんの言葉から――

東京労音新交響楽団、略して新響は、労音の会員によって組織され、そして全国各地の労音例会で演奏活動を行なっている唯一のオーケストラです。芥川也寸志さんのきびしい指導のもとに、結団以来九年間、練習に練習を重ねてきた「新響」の生いたちを芥川さんの言葉からたどってみましょう。

機関車のように強引に

「『一度でいいから演奏をきいて下さい』といわれて私は気軽な気持ちで八東京労音アンサンブル〉の練習場へ行ってみました。

集まっていたのは十二、三人ほどで、間もなくはじまった演奏はスマートな名前に似合わず、それはひどいものでした。

ヴァイオリンはキーキーといななき、クラリネットはスースーとうめき、チェロは牛の鳴き声そっくりの音を出し、まるで動物園にいるようなものでした。今から九年も前のことです。

はじめのうちはこれはたまらぬとばかり閉口しきっていたのですが、我慢して聞いているうちにいつの間にか私は彼等の音楽に好意を持ちはじめました。たとえどんなに技術が劣ろうとも、生まじめな、真剣な姿は人に魅力を与えるものです。そして私は知らず知らず『もっと弱く！もっと強く！もっと柔らかく！もっと短かく！』などと一生懸命叫んでいました」

こうして芥川さんのきびしい練習が始まったのです。〝アマチュアで最高のオーケストラ〟を目指して、来る週も来る週も、確実に、厳格に、練習が続けられました。

「私は強引に、一切の妥協を排して、機関車のようにみんなを引っぱり続けました。わめき、怒鳴り、悪口雑言をはき続けました。

それでもみんなはついてきてくれました。一日の仕事を終え、疲れた身体をこんだ電車にゆられ、団費をはらったうえでガンガン怒鳴られるのですから、こんなに分の悪い話はありません。それでもみんなは集まってきます。おそらく、音楽を作っていく楽しみや、自分を、そして自分たちを、よりよくつくりかえていくよろこびの前には、このつらさや苦しさなどはもののかずではなかったのでしょう」団員はどんどん増え、東京労音の盛んな応援が、団員に信頼感と誇りと励みを与えていったのです。

雨降って地固まる
――第一の壁――

こうして練習を積み重ね、ある程度の演奏が出来るようになった頃、一つの壁にぶつかってしまいました。「『たとえどんなに下手であっても、どんどん職場の中に入って、できるだけたくさんの人に聞いてもらうべきだ。行動を起さなくては、苦労して練習する意味がない』という意見と『ろくな演奏もできないようでは人に楽しんでもらうわけにはゆかない。まず自分たちで楽しむべきだ』という意見の対立でした。

これは一概にどちらが間違っているとはいえない問題です。私たちのオーケストラは、そもそも道楽としてでなく、一つの音楽運動として労音会員によって始められたのです。演奏活動をぬきにして考えるなどということは、当然あり得ません。しかし、そうかといって、自分たちでさえ楽しめないでどうして他人を楽しませることができましょう。この両方の意見には、それぞれ一面の理があります。結局、この面倒な問題は、最も基礎的な、アマチュアオーケストラとして最低の技術的条件をそなえるまでは、練習に専念するということで意見の統一に達したのですが、こういう問題が起こったおかげで、団員たちはあらためて自分たちはどうあるべきか、について深く考えることができたように思います」正に〝雨降って地固まる〟といったところです。

二つのオーケストラで
飛躍的に発展――第二の壁――

「団員も増え、技術も高まってくると、もっと大きな壁がやってきました。

それは、団員間の技術の差から起きるオーケストラ全体の進歩の停滞です。技術の低い水準にあわせて練習すれば、オーケストラの進歩は止まり、技術の高い団員は脱落してゆき、反対に高い水準にあわせれば、一時は多少進歩しても、今度は技術の低い団員の脱落が相次ぎ、運動は衰微するという結果を生むのです。どっちにしろ進歩は止まり、運動は力を失ないます」「そこで、私はオーケストラを二つに割ることにし、みんなにそれをはかりました。新響発展のためにそれは絶対条件でした。ところがその意味をみんなが本当に理解するまでに非常に長い時間がかかりました。ほとんど二年近くの間私は説明し続け、やっと技術の高い第一オーケストラと、技術の低い第二オーケストラとが生まれました。その結果は私でさえ驚ろくほどの効果が、またたく間に現われました。

第一オーケストラは、見る間にぐんぐんうまくなってゆきましたし、第二オーケストラは急に団員が増えて、すぐ第三オーケストラを作らなくてはならなくなりました。実に重い壁ではありましたがそれはやはり、どうしても乗り越えなくてはならない、大切な壁であったと思います」

こうして新響は飛躍的に発展し今や三つのオーケストラと一つのブラスバンドをもつほどに成長したのです。新響は、芥川さん自身にとってもかけがえのないものであるばかりでなく、東京労音、そして私達全国の会員にとって、労音運動のあるべき姿を示す、極めて価値ある存在です。

リエーセ楽団演奏会

十月例会は　日立労音始めての本場のタンゴ楽団を迎えての異色例会です。しかも、アルゼンチンタンゴの巨星とうたわれるオスバルド・プグリエーセが率いる、このオルケスタ・ティピカは、現在ブエノスアイレスのタンゴ界に君臨する最高のオルケスタなのです。プグリエーセ楽団独特の、迫力ある奏法、極めて変化に富んだ巧妙なアンサンブル、そして、超一流のスター・プレーヤーであるオスバルド・ルジェロを中心に、バンドネオンセクションの独特のアンサンブル！

男性歌手二人を加え、広いレパートリーの中から、プグリエーセ自作の曲も含め、代表的タンゴ二十四曲を選んでの演奏！　タンゴファンならずとも、タンゴのとりこになること受けあいです。新らしい会員をジャンジャン誘って、サァ！　市民会館へ！

（詳しくは、八月機関誌を御覧下さい）

と　き　10月23日（土）
ところ　日立市民会館
かいひ　300＋150エン

主な曲目

インスピラシオン（霊感）
カナロ・エン・パリ
テクエラ・ケリーダ（愛する土地）
エル・アマネセール（夜明け）
君なくして
ラ・クンパルシータ
マランボの踊り
エル・アディオス（別離）
レクエルド（想い出）

ただ今　会員拡大運動中！

委員会　ブロック等，日立労音全組織，全機能を投じて現在1,500名拡大への一大運動を展開しております。あなたもぜひ新会員を！

10月例会のお知らせ

本場のタンゴを聴こう!!

オルケスタ・ティピカ

オスバルド・プグ



メッセージ

日本の労音のみなさん，私たちのオルケスタを代表してみなさんに御挨拶するのは，私にとって本当にうれしいことです。私たちのオルケスタは，この偉大な国日本の伝統や感じ方とは異なった音楽を演奏します。しかしその音楽は私たちの国の真実の味があるのです。タンゴはアルゼンチンの首都ブエノス・アイレスの唯一の音楽です。それはこの国に生れ，育ち，私たちがアルゼンチン人である限り，決して亡びることはないでしょう。アルゼンチンでは，世界のあらゆる国と同様に，アメリカ合衆国の商業音楽の大洪水が起っています。しかしタンゴは生き続けます。それは「私たちのもの」として残っている唯一つのものです。私たちのオルケスタにはボスはいません。誰も命令したり，裁定するものはいません。一つの共同体として，相互の話し合いによって行動するのです。又，音楽的にも，それぞれのメンバーが自分のメロディーとリズムを持って居り，それらの異なった要素の組合せによって，オルケスタ全体が機能を発揮するのです。このスタイルはタンゴ研究家たちによって「ポリリズム」（多リズム）と呼ばれています。私たちは，私たちのオルケスタが日本で好まれるのを望んで居ます。日本では，まがい物と本物とを区別して味わってくれる筈です。それに音楽には国境はありません。それはソビエト連邦での私たちの経験からもいえることです。そこでは人々は，習慣と言語の相違にもかかわらず，私たちに喝采を送ってくれました。愛している日本で公演出来ることの喜びをくり返えして申上げましょう。では，お目にかかれる日まで！

オスバルド・プグリエーセ

さあ市民会館で例会です。収容人員の関係上おさえつけて来た会員数を大いばりで増やせます。多くの会員で良い例会をという訳です。

そこで先月に引き続き、会員拡大の第一線で活躍を続けるサークル活動の中から、こんなサークルもある事をみなさんに知っていただきましょう。

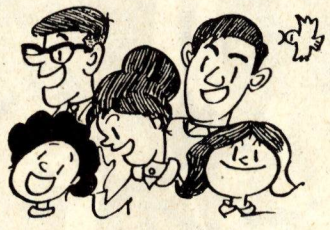
伝統を誇る
――水曜会――

水曜会――その名の通り水曜日に集会を行なう事で我がサークルの名称が生れた次第。昭和三十年発会以来、本年で十年を迎えました。省みるに、日立公民館に於けるポピュラーレコードコンサートの開催をはじめ、青年学級や数多くの行事を行ない、多くの人々に親しまれ受け継がれて、日立労音にその準備会時代から参加し伝統あるサークルとなっている。

現在水曜会の会員数は三十名程で、うち約半数が女性です。労音の会員になっている人は男女二十名おり各分野でハッスルしています。我がサークルの特色として会員の分布が広く、日立、多賀、国分、日研、日高電線等各工場の会社員から印刷関係、病院関係、クリーニング関係と非常に巾が広い事です。そのため、困難な点も多々ありますが各人各様の体験談、苦労談を聞く事で各人得る所があり、又非常に新鮮味があります。

サークル独自の行事として、キャンプ（今年は八月に伊師浜海岸にて）交換読書会、ハイキング、ゲーム大会（マージャンも含む）と多くの行事を取り入れ、サークル内での友好を深めるばかりでなく、機会ある度に他サークルに呼びかけ、より広い交際をするようにしてます。会員外の参加も呼びかけ、水曜会や労音というものの内容を身を持って知っていただき、希望入会という方法で会員拡大を計っている訳です。今後他サークルとの交流をより一段と推し進め、会員相互の親睦を計り度く思っております。よろしくお願い致します。

サークル紹介



自慢できる会員拡大率五倍
――ALANO会――

「ALANOをひっくりかえしたら、ONALAになるなんていうのは、どうも品がないね」「アラ！　エッチヤワ」「くさい話だけど、最初に決めた時はおもしろい名前にしようとこれで全員イッチしたんだよ。しかし別の意味にとれないものだろうか？」「そうね、土はやせて、雑草がボーボーとはえている荒野（あらの）にしたらどう。そうすると、この荒野を私達で切り開いて、耕して、肥料をやって緑の大地に変えていこうとする意気込みを感じるんじゃない？」「どんな肥料をやるんだ？」「そんな事聞かなくてもいいでしょう。そしてこの緑の大地へ関東労音の友好祭で覚えた歌にあったように、何か願いをこめて一粒の種を蒔くのよ！」「なるほど！　その一粒の種がくる年くる年数を増やしてゆくという訳だね」――こんなところから話が発展し、九月から市民会館へ移る事、そのための会員拡大が財政的にも、例会を充実し、私達の力を大きくするためにも必要であり、又、千五百名にしようという運動方針にそって、他のサークルでも取り組み始め、すでに三十分の間に十二名も拡大した所もあるというような事まで話し合いました。

「それじゃ、いっちょうやっか」「やっぺ」「やるぞよーん」てな調子で奮斗し、十二名の新しい仲間を迎える事ができました。

インスタント・ラーメンをする食べながら、新しい仲間との顔合せをしました。自己紹介、懇談、歌唱指導、会員証授与式、その他駄洒落一式。……しとやかな女性四名、たくましい男性十一名のそれぞれは職場で、あるいはどこかで毎日互いに顔を合せる仲間です。この仲間の良い所を基礎に、楽しいサークルを作り、皆さんといっしょに労音を盛り上げてゆきたいと思います。ヨロシクネ！



休息

真黒く陽やけし、前をむいているのか後をむいているのかわからなかった夏も、もう楽しい思い出となり台風シーズンである。アベック台風なんてものが来ると、何んだかデートでもしたくなりソワソワしてしまうなんてうそぶく人もいるとか。とにかく秋である。

そうそう、秋と言えば結婚の秋でもある。日立労音の活動家の中にも愛実ってついにゴールインする人もかなりおるとか。

独身者にとってみれば結婚という事は人生の一決算期であると同時に大きい夢、はてしない未来を想像させるものである。しかし身近かな、毎日の活動の中から自然に……。なんて考えているとおもわずホオがゆるむ思い。「日立労音は縁結びの神様」とまで言われるほどロマンスが発生したなら……。「楽しいね。」

何はともあれ労音活動の中から生れたカップル、生れようとするカップルに「オメデトウ」といいたい。

労音結婚バンザーイ！

つどい

飛んだりハネたり
—フォークダンスのつどい—

台風一過の九月五日、神峰公園頂上の美しい芝の上でフォークダンスの集いを開催しました。

炎天下約六十名の老いも若きもが（といいたいところだがそろいもそろって美男美女！へへ……）神峰公園へと……。

約三時間に渡り、オクラホマミクサに始まり、ワシントン広場までザット十曲、初心者はフォークダンスのムードを味わい、経験者は新しい曲を覚える。こんなチャンス又とないでしょう。頂上が坂になっているので、フォークダンスを楽しむと同時に登山気分も満喫した人がいたとか……。男性が少し多かったため、初めての女性役に照れる人や、チャーミングな女性に圧倒されて、すべってころげる人。「カムアイラブ」では頭の鈍い所を暴露してしまいあぶれた人、イヤハヤ飛んだりハネたり笑ったりで楽しい数時間をすごしました。

我がフォークダンス同好会も九月十一日で正式発足しています。フォークダンスを通じ友好を深めるのを目的としています。一度も踊った事のない人もどうぞ！

社交ダンスでは味わえないフォークダンスのムードを胸いっぱいにすい込んで踊ろうじゃありませんか！　PRをチョッピリ……。

心ゆくまでの討議
—合宿集会—

当日の委員会は、まずゲームで笑いの内に始められ、各分科会に分かれての討論の途中雷のため停電し、ローソクの灯で討論を続ける等の一幕もあり、和気あいあいの内に進行されていった。

労音と思想、労音の目的、労音運動はいかに展開されるべきか等々第一回の合宿委員会のせいであろうか色々な議題が散発的に出され、その各々に対して充分討論が行なわれない内に時間になってしまったのは、ちょっと残念であったが、今後第二回、第三回と続けられていくようであるから第一回目に出された各議題を一つ一つ充分に討論し煮詰めて行くようにして欲しいと思う。

労音は一千何百名かの会員を有する組織として運営していく以上その進むべき道は、このような討論の場を多くつくり、一般会員とも充分話し合い、全会員の納得のゆくような正しい方向をみつけてゆくべきだと思うし、委員長の言った「日立労音の進む道は、ある特定の人々がつくるものでなく、会員の一人一人の考えの積み重ねに依りつくられていくべきである」という言葉もこういう討論の場に多く参加する事に依り、実感として感じられるようになると思う。

そういう意味でこういう討論の場をブロックで、又細かくはサークルで行なわれるようになる事は労音運動の安定、発展に不可欠であろう。

始めての合宿委員会に参加して自分で考えていなかったような事を指摘されたり、又考えを改めさせられたりし、今まで自分にはこういう話し合いの場が非常に不足していた事を痛感させられた。

討論というより、もっぱら聞き役ではあったが、貴重な二日間であったと思う。

民族の心をうたう
ギタリスト ファルー来日！
／一月例会／

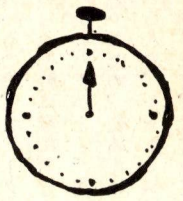
アルゼンチンの誇るべきギタリスト、エドワルド・ファルーが再び労音招聘で来日します。

ファルーはアルゼンチンの北西部、民謡の宝庫と言われるサルタ州に、一九二三年に生れました。彼は正規の音楽教育は受けていません。しかし彼のギターはクラシック奏者にも真似のできないほどのすぐれた音楽性と、高度の技功をもち民族の心を歌いあげています。

クラシックギターの巨人アンドレス・セコビアがファルーの演奏を聞いて涙を流したというのは有名な逸話ですが、きくものの心にしみ通る美しい音色と豊かな人間味にあふれるファルーのギターは、アルゼンチンの民族の心をそのまま伝え、日本のファンをも感動させるにちがいないでしょう。



らくがき帳



らくがき帳より

。例会に来る時いつも胸がドキドキしちゃう。何故って？　いつも可愛いあの娘に会えるから、でも……

。例会とは何ぞや？　例の如く暑いもの？

。毎度のことながら開演時間が予定より遅れる。きちんと守ってもらいたい。又会員も開演五分前には着席すること。

。毎月の例会は土・日曜日を出来るだけ避けて下さい。

。市民会館完成！　日立労音も大きく成長せよ。二、〇〇〇人会員をめざして！

。労音が労働会館で行なわれる最後の例会、次回からは新築市民会館で行なわれる由、大変楽しみ。第一、市民会館には食堂があること。労音の会員には特別安くうまいものを食わせてくれないかな。腹が減っていてはせっかくの素晴らしい音楽も耳に入らず腹で共鳴を起すのみ。

。会場問題で大分悩まされた日立労音であったが、今度市民会館が出来、すごくうれしい。うれしいのは会員をふやすのに都合が良いから。これからもっともっと楽しく暮しを共に出来る友を、労音に結集していこうではありませんか。

。席の配分が非常に複雑になったのは残念である。今までの席の配分に不満のあった人は是非一度反省してみて下さい。

。以前はこんなことがなかったのですが、今月は演奏中に通路を通る人が居りました。これは大変迷惑ですので受付の人は休憩時間に入れるように、そして各人に気をつけるようにしてもらいたいと思います。

。ため息にうずもれた暑い室に、あまい愛のメロデーここに流れる。パリの香りがする。シャンソンは澄んだ初秋の空に静かに消え行く。

。歌唱指導〝その手に明日を〟はなかなかいい感じの曲で又、ステージで歌うのもまたいいもの。会員の皆様のハッスルを期待する。

—松の子—



。歌唱指導の時、場内がパッとすると同時にザワザワザワ、どうかしらネー。

。歌唱指導の際、一応一通り歌い終えて「ステージへ上って歌いませんか」と司会者（？）が言った場合、積極的に歌ったら良いと思います。積極的でないということは非常に残念でなりません。

—ポンポン—

。女は化物だ、五十才近い石井さんが、どうですあの若さ。世の男性よ、くれぐれも注意しなさいよ、女は外観だけではわかりませんよ。

。一曲一曲説明して歌ったのでたいへん聞き良かった。市民会館での来月例会を期待する。

。シャンソンってこんなにすばらしいの。今まで知らなかった…感激の例会、ありがとう。

。好子さんの歌聞きたさに病身（入院中）にムチ打って例会に出席しました。好子さんの太った（ボリュームのある）イメージより案外スタイル良いじゃない。この暑さにバテたのかな？

。大変長い間お世話になりました。快感—（会館）今日でお別れです。来月より市民会館を期待して……夢見る想い。

整理券より（七月例会より）

。皆さん、いつも御苦労様。日立労音は会員の組織化をもっと積極的に進め、浮動会員を少なくすべきだと思います。そうすることにより、例会の計画もスムーズにたてられるのではないでしょうか。

。毎月の例会御苦労様です。しかし、自分の聞きたくない例会もある訳で、一回でもぬけるとその度に入会金を払わなければならないのは実につらい事である。その点、委員の皆さん考え直してもらいたい。

。高萩地区がこの頃下り坂になって来た感じですけど、どうなんですか。もう少し会員の協力が欲しいと思います。特に女性会員を多く望みたいですネ。私達の労音なんですから……。

。例の税金問題の件ですが、機関誌にばかり載せないで、チラシでもってじゃんじゃん会員の間に流して下さい。

。金額は問わず。もっと良い例会を聞きたいものです。

。友達三人で一緒に行きましたが席がバラバラで困りました。なぜそのようにするのでしょうか

。クラシックかフラメンコのギターリサイタルを計画して下さい。なお会費は少々高くなっても良いと思います。

。クラシックやシャンソンなども良い。来月か、さ来月の例会はウエスタン（ジミー時田）などもお願いネ。

。潮田益子例会、久し振りのバイオリン、うっとりと聞きほれた。やはり生演奏はいいねえ、潮田のおねえちゃん、これからもガンバッテ！

。最高にイカシタ。ポピュラー党だけどクラシックも悪くないネ

。潮田さんのように若く将来有望な人大歓迎、企画をやる方頑張って下さい。

事務局だより

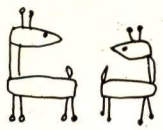
十月例会の会費受付は

■**期間**
九月二十七日（月）より
十月二日（土）まで
ただし多賀連絡所は九月二十七～三十日の四日間のみ

■**会費**　三〇〇円＋一五〇円（追加会費）
入会金　五〇円

■**時間**
日立事務局　十時～一八時
高萩連絡所　一八時～二〇時
多賀連絡所　一七時半～一九時半

■九月例会の受付では、受付期間を少し遅れたサークルでは希望する座席を取れないこともありました。できるだけ受付期間内に受付を済ませるようにしましょう。



■**例会日が変更になりました**

会場の都合、出演者の都合で、十月と十一月の例会が次の通りに変更になりました。予定がくるうかも知れませんが御協力下さい。

十月二十三日（土）六、〇〇～
オスバルド・プグリエーセ

十一月二十七日（土）六、〇〇～
古典音楽協会

■**市民会館完成祝賀パーティへのおさそい**

労音として一ヵ月間に四、七〇〇名の署名を集めたり（三十七年五月）例会場でのカンパ（三十九年三月）建設基金募集ダンスパーティ（四十年三月）など、できる限りの努力をした念願の市民会館が完成しました。

この喜びをみんなで持ちよって盛大な祝賀パーティを開き、併せて十月例会の前夜祭としましょう。

とき　十月二十一日（木）
午後六時～八時
ところ　市民会館大会議室
かいひ　一〇〇円
申込みは事務局へ

■**F・D・C（フォークダンス同好会）が発足しました**

九月五日、神峰公園で「フォークダンスのつどい」を開き発足しました。九月中は毎週土曜日に行なっていた集会を、十月からは新しい公民館（市民会館三階）で毎週金曜日六時から八時まで行なうことになりました。

友好祭やハイキング、ブロックの集いなどには必らず行なわれるフォークダンスを気軽に覚えられるように、また健全なスポーツとして、この同好会を発展させましょう。

詳しくは事務局か、集会当日、公民館へおいで下さい。

会費は一ヵ月五〇円

■今月より、演奏者への花束贈呈が「白十字」さんの御協力により実現することになりました。今後の例会は今迄より一層、楽しいものになるでしょう。

■**おわび**

先月号の「事務局だより」中で梨狩りの会費が三〇〇円となっていましたが、一五〇円でしたので訂正しておわびいたします。

ダンスレッスンのお知らせ

先月の機関誌にも載っていますが，次のような方法でダンスレッスンを行ないます。この機会に正確なステップを覚えましょう。申し込みはまだ間に合いますので至急ご連絡下さい。

Aコース　―始めての方のために―

9月29(水)	10月2(土)	ブルース
10月6(水)	9(土)	
13(水)	15(金)	タンゴ
20(水)	23(土)	
27(水)	30(土)	ワルツ
11月3(水)	6(土)	
10(水)	13(土)	ルンバ
17(水)	19(金)	

時間　PM5.30～7.10
会費　780円（パーテイ代含む）

Bコース　―もう踊れる方のために―

10月2(土)	タンゴ
9(土)	
23(土)	
30(土)	ルンバ
11月6(土)	
13(土)	チャチャチャ

時間　PM7.20～9.00
会費　390円（パーテイ代含む）

ところ　日立ダンス教室

おさらいパーティ（A・B合同）
とき　11月27日（土）PM5.30～9.00
ところ　中小企業福祉センター

販売から調律まで
技術者が3人控えております
――調律即時参上――
株式会社 平山ピアノ社
平山ピアノ調律所
水戸市東原町（自由ケ丘バス停前）
TEL 日立から 0292 (2) 4632

日立労音 1965・9 NO47 日立勤労者音楽協議会
日立市鹿島町一丁目一八ノ二 TEL(2)3048 発行・出版部

九月です。
これからがダンスの
シーズンです。

ロマンスの発祥地

ニューワールド

(日立労音指定店)

日立労音の会員証を持参下されば当店の「正会員」扱いとなります。

ニューワールドは面目を一新
生まれかわりました

ダンスホールの本格派です

今年こそはクリスマスまでダンスを!

日立市弁天町1丁目
TEL (2) 6766・6767

今はコーヒーのおいしい
時期です

The GRACE CO., LTD.

TEL. 本店 (2) 0289・3006・3007
銀座通り店 (2) 2589